

教育センターだより

目 次

研修とは何か.....	1
座談会「研修を考える」.....	2
各研究室の構想.....	5
学校調査の概要.....	7
告 知 板.....	8



へき地教育研修講座
—協和町立大盛小学校にて—

3年前の海外視察の体験から、外国における教員研修の実態の一端をのべて、研修とは何かを考えてみたい。

レニングラード市教員研修所では、90名の研修担当の所員がいるが、4名は大学の先生の資格を持つ修士、6名はメソジスト、これは

研修とは何か
海外視察の体験から
教育研究部長 小貫山 達 夫

市内で最優秀の先生で講座を担当する。年間の受講者は約1500名であるが、試験か論文によって、合格者に修了証書が渡される。これは期間が1年のコースで、5年か6年に1回の受講が教員に義務づけられている。またオーストリアのウィーン州（首都圏でもある）では、とくに若い教員については、視学が年1回は授業参観をして、研修の結果を評価し、勤務評定の資料としているが、2回悪い成

績が続くと、その教員は免許状を取り上げられる。研修とはきびしいものだという実感が心に深くきざまれた。帰国後、「通訳だから、君も英語がペラペラになったろう。」などと人さまからいわれることがあるが、本人にとっては、まさに冷汗のものであって、語学の研修とはそんな生易しいものではないということを身をもって知らされたというのが本心である。

実際に英語を使ってみたことによって、それからの勉強の態度が、ただ本を読み、記憶する、思考するといった形式から、新教育課程で強調されている言語活動という語学の実践の分野に強くひかれるようになってきたことは確かである。

あせらずに進みたい。

教育センターの研修を考える

出席者 大曲第二小学校長 菅 綱男
 高清水中学校教諭 安田文夫
 日新小学校教諭 佐藤優子
 (司会) 教育センター
 経営研究室長 荒川浩司



司会 お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今日は「教育センターの研修を考える」ということで、いろんな角度からお話を承りたいと思います。

お話をうかがう前に、教育センターについてちょっと説明させていただきます。目的と言いますか、事業と言いますか、私どものやっていることは大まかにいって3つあります。1つは研修です。研修講座に先生方に参加していただくということです。2つめは研究です。秋田県の教育の問題について所員が研究するわけです。毎年、研究紀要をつくっております。3つめは奉仕です。たとえば、登校拒否児の心理治療など教育相談に応じるとか、ショウジョウバエ・蚕種などを頒布するとか、学校統計一覧などの資料を提供するかですね。

研修講座についていえば、今年度は88講座ございます。先生方の学校に教育事務所→地教委を通じて割当てられる講座 — 私どもはA講座とっておりますが — が76。先生方が希望して受講なさる講座をB講座といい、12ございまして、年間2500人余りの先生方おいでになるわけです。先生方も、これまでに何かの講座に出席なさっていると思います。

前おきが長くなりましたが、まずセンターの印象などからお聞かせいただけませんか。

センターのイメージ・チェンジを

安田 ここ、教育センターになる前は理科教育センターでしたね。

司会 ええ。教育研究所と理科教育センターを統合して、昭和45年から教育センターになったわけです。

安田 その理科教育センターの前を通過して、技術科の方もあればいいなと思っていたのです。私は技術科の担当ですし、学校ではお金や施設の面で実験や実習が難しいものですから。それで、教育センターになる

ときに技術・家庭の研究室もできると聞いたので、われわれの研修の場が設けられるのはうれしいことだなあと思ったわけです。

佐藤 私は、昨年の教職教養研修講座(新採用教員対象)に、延べ1週間お世話になりましたけど、不勉強のせいかも知れませんが、どういう人がここを利用しているんですか。

司会 県内の小・中・高校の先生方です。理科・国語・数学などの教科担任とか、特殊学級の担当者とか生徒指導主事とか、いろんな先生方です。校長さん、教頭さんも来られます。講座を受講なさる先生方だけでなく、たとえば、研究指定校の全職員が来て所員の話の聞きながら共通理解をはかるとか、地教委単位で先生方が集まって来て機器の実習をするとか、そういうこともあります。

佐藤 それで1週間の研修を受けて感じたことなんですけども、ここにはいろんな専門の先生方がたくさんいらっしゃる、資料なんかも豊富にそろえてあるらしい。私たちが学校で実践している間に疑問が出て来たとか、ゆきづまった場合とか、ここへ来れば何とか解決の糸口が見つかるんじゃないか。そんなふうに思いました。自分流の解釈なんですけど。

司会 広い意味での教育相談も私どもの仕事ですから、どんどん利用してください。教えるというのじゃなくて、一緒に考えるということをやっています。ただ図書や資料等は先生方のご要望に答えられるか疑問ですけど。

菅 私、実は去年はじめて学校評価の講座に参加したのですが、まず感じたのはひじょうにソフトだったということです。正直言って教育センターというところは何かガチガチしてですね、「お前たちにはこういうことはわからんだろう、これから一発たたき込んでやるからはいって来い」というイメージを食わず嫌いでもっていたんですよ。来てみたら、実際はそうじゃなか

った。われわれの問題をセンターの先生方が拾いあげてこういう問題を一緒に考えてみようということなんです。

菅 同感ですね。講師なんていえば堅苦しく聞こえるんですが、実際講座に来てみると同じ仲間の教師だったことですね。そんな感じはみんな持っているんじゃないですか。

菅 それからですね。地域でも研修会なんかたくさんあるんですけど、全県的に集まるということもいいですね。特に私の場合、高等学校の先生方と一緒にやったというのは、教員生活が30年近くなりますけど初めての経験でした。ひじょうに新鮮な感じでした。今考えると、こういうところでなければ、全県的な範囲から集まったり高校の先生方とも話し合えるということではできないんじゃないかと思っています。



速効と遅効のコンビネーションを

司会 88の講座の中には、すぐ指導に還元できる速効薬的な内容もありましょう。一方、一般教養的な内容やその講座内容からご自分で新しいものを創り出すといった操作を加えなければならない遅効薬的な内容もありましょう。研修講座そのものについての感想はどうでしょうか。

菅 私は一度しか出ておりませんので、大曲市内の先生方十数人に聞いてみたんです。1人として受講してみてもまずかったという人はいませんでしたね。特によかったというのは実技系統の先生に多いようです。自分の身について明日からの学習指導に生かしていかるといえるんですね。一般経営的になると、いつかは役立つでしょうけれど速効的でないもんだからピンと来ない点もあるんじゃないかと思えます。

安田 私も一昨年でしたか生徒指導の講座に出たんですけど、ともすれば講義形式一本やりになる可能性があるわけですよ。ところが私たち学校にいる者は理論的なものもたしかに必要なではあるけれども、それが現実の指導の場でどういうふうに具体化されるのか、ということが一番希望しているわけなんです。その生徒指導の講座の際も演習がありまして、自分たちがいろいろ具体例を出しまして検討し合ったんです。われわれ教師も生徒と同じようなものでしてね、来てみての驚きというか、新鮮さですね、それにこれが身についたんだ、明日からの指導



に生かせるんじゃないか、と思うことが必要なんです。あのときも、学校へ帰ったらほかの先生と一緒に試してみよう、などと話し合ったんです。

それから技術関係の講座ですね。ひじょうにタメになりました。さきほど菅先生から速効的というお話がありました。それもあるんですけど、学校ではお金や施設の面で難しいことが多い。あのような実験はセンターでなければできないし、しかもその背後には、学校でできるようにという配慮があるわけです。それがよかったと思いますね。

佐藤 私は新採用教員として教職教養講座に出席しました。一般教職教養的なニュアンスが強いんですが、いろいろな教育機器を見せていただいたり、トラベン・アップの操作方法とかTP作成の仕方などもやりました。今年、私の学校でトラベン・アップを講入したんですが、おっくうがらずに使っています。それからソシオメトリック・マトリックスというのがありますね、子どもたちが集団の中でどう反発しどう結びついているかをあらわす図表みたいなもの。今年からクラスがかわって子どもたちのことよく知らないんですけど、実際作ってみるといろいろなことが読みとれてくるわけですね。とてもよかったと思っています。



また、大曲で学校参観をしました。登校時から放課後までです。実際に自分の勤めている学校では、学校が1日どういうふうに動いているのか、自分を外において見る機会はないわけです。一緒に行った先生方もあとで話し合ったんですけど、とってもよかった。

参加方法にくふうを

司会 菅先生もおっしゃいましたけれど、地域でもいろいろな研修会はあるわけですが、センターでの研修の場合は全県的な集まりで、それだけ視野を広められるんだというようなことがありました。この点はいかがですか。



安田 あちこちから集まって情報交換などということは役立ちますね。ただ、しょっちゅう顔を合わせる人とそうでない人がおるような感じがします。

佐藤 私の場合、後期は宿泊を一緒にした研修だったわけです。あの研修の意義の一つと言ったらおかしいかも知れませんが、同じ年に採用された人たちが集まって友情を深めた貴重な機会だったと思います。ふ

だんはそういう機会はなかなかないんじゃないでしょうか。湯沢の先生とか能代におられる先生なんかともいろいろ話ができました。そういう方が日曜日などよく秋田市に出て来られるので、学校この頃どうだとか、今どうということやってるかなど話をします。でもほんの一部の方とですね。だからあのときのメンバーというか同じ世代のものが集まって研修を積重ねていく機会があったらなああと考えることがあります。

司会 出あいを大事にしていきたいと思いますね。新しい出あいははぐくんで行ける講座が一つぐらいはあってもよいと思います。本気で考えてみましょう。

菅 安田先生もちょっと触れられたんですけど、センターの研修に比較的多く来る人とそうでない人がいるんじゃないかと思っています。私、興味あったものですから調べたことがあるんです。ある学校の場合、職員数が50名以上ですが、センターの研修に参加したことのある人は10名ほどしかいないんです。私の学校は9名のうち3名だから率が高い方なんです。全県的に言えば、約半受講したとか年間2500人行ったはずだとか数字は出ると思うんですけど、実際はかたよりのあるんじゃないですか。これまでセンターに来たことのない先生方を参加させるという方策が必要なんじゃないかと思っています。そのための試案ですけど、研修カードを作ってこの人はいつどんな講座を受講したかというのをわかるようにすればいいんじゃないでしょうか。

佐藤 センター研修受講カードありますよ。

安田 秋田市では中学校が青、小学校が黄色のパンチカードになっているのがあります。

菅 そうですか。やっぱり秋田市は中心地ですね。

司会 二ツ井町でも作ったと聞いています。どこの地教委でもその必要性は認めておるでしょうが、センター以外にもいろいろの研修もありましようから、なかなか難しい問題がありそうですね。

佐藤 菅先生のおっしゃったこと、私の学校でも聞きました。小規模校にいたときは何回も行ったんですけど、今の学校へ来たら行きたい講座があるのに順番がまわって来ないと。

安田 やっぱり、行きたいなあという声はあるんです。最初に荒川先生から割当の講座と希望の講座があるとうかがいましたが、割当制の講座にも何人かは希望してもいいというのがあってもいいと思います。割当だから行けというよりも希望して来たとなれば違うと思うんです。

菅 機械器具の関係でどうしてもできないのはやむをえないんですが、場所だけあればよいという講座は

地区ごとにやるとか2回やるとかしてほしい。折角希望したのに、人数多くて駄目だと言われるともう行く気がしなくなるという先生もいました。

センターへの要望を

司会 最後にセンター研修全般について、忌たんの御意見をおきかせください。

安田 さきほども言いましたが、理論的なものと学校の実情とをつなげる内容のものを多くしてほしいということです。理想的にはこうだけれども、学校の実情を考えたらここまではやれるんじゃないか、というようなことですね。

佐藤 施設・設備をもっと利用させてほしいような気がします。図書の貸出しとか、実験器具を作らせてくれるとか。

司会 図書は少ないので自信ありません。グループの研修でしたらセンターの都合のよい場合応じています。できるだけ研修講座一覧(年度末に各学校に配付)の希望者対象の講座を利用してください。理科ではガラス器具の製作もあります。

安田 ついでですが、うんと呼びかけをすべきですね。教育相談で、子どもや親とカウンセリングしてくれるのを知らない先生方多いです。

司会 「教育相談のご案内」を毎年配っているんですけどなかなか見ていただけないようですね。理科では蚕の卵やショウジョウバエの頒布をしていますが、これも知らない方がおるようです。

菅 少し細かいことですが、周囲の先生方から聞いて来たもんですから。社会科で秋田港なんかのフィールドワークを取入れた講座がありましたがとても好評でした。ついでですが、秋田市に来たらせめてこれはおさえなければならんというようなものを講座に取り入れるとか資料としてだしていただければ、という声もありました。小学4年生の場合ですけど、それから、特殊学級は学校では促進学級の傾向が強いと思うんです。その指導に関するものをもっと加味してほしいということです。年輩の教師に対するものとしてですが、われわれの先輩の業績をもう一度たしかめてみるという内容があってもいいんじゃないかと思っています。新しい理論や教育方法がどんどんはいつて来るんですが、未消化のま、次の新しいのへ行っちゃうという感じなんです。

司会 貴重な御意見を聞かせていただき、ほんとうにありがとうございました。まだまだお話があるかと思いますが、今日はこのへんで。(記録文責・百木)

教育の向上をめざして

各研究室の構想

今日的課題解決をめざす

経営研究室

○教育工学研究チームの発足

教育機器普及に伴い、この4月から当研究室に教育工学研究チームが発足した。吉富指導主事をチーフとし、鎌田・佐藤研究員のスタッフである。目下、講座での講義・実技演習等で活躍し、ソフト・ウェアの開発にも乗り出している。

○若きホープ新採用教員に援助を

教職教養研修講座Ⅱ(新採用教員対象)が5月8日～10日に行なわれた(前期)。

受講者のアンケートによると、「あなたの学校で新採用や転入者の先生を対象に特別な研修の場を持ちましたか」に対して「もった」とこたえた人は、小学校54人に対し9%、中学校39人に対し8%、高等学校56人に対し13%である。

もっとその学校の教育にスムーズにはいっていきけるあたたかい配慮がほしいものである。

○全教連・特別活動協議会

10月3日～5日、全国的催しが当センターで行なわれる。特別活動の必要性・重要性を認めつつも、その具体化については多くの問題が指摘されよう。今回は特に「教師の指導性と児童の自主性とのかかわり合い」を基底におきながら、学校経営と特別活動、学級指導と学級会活動のかかえている課題を考究しようとするものである。

○へき地の子ども(大盛小)

6月18日、へき地教育研修講座は協和町大盛小学校で実施。児童数33名、3学級の複式である。複式学級といえば算数・国語の指導に定着しつつある昨今ではあるが、大盛小では他教科はもちろんのこと、学校1日の全ぼうを公開してくれた。先生方の熱心な指導と生き生きとした子どもの姿が、受講者に感銘を与えた。

研修内容の充実を

教科研究室

国語……小中高とも文学教材を領域とした学習指導法・教材研究・作品研究を内容とし、演習と授業研究を重視する講座にした。中高では、特に古典学習指導

の問題にウェイトをおき、中世文学関係の講演に中央講師をまねき、講座内容の専門性を高めていきたい。

社会……小学校は低学年担任50名を対象に「うちの人の仕事」「工場ではたらく人たちの仕事」の取り扱いを中心に、中学校は公民的分野「日本経済の現状と課題」の取り扱いを中心に、それぞれ演習を軸に進めた。小・中とも2日めの午後は「TP作成の理論と実際」3日め午後は秋田火力発電所と秋田港の見学。

算数・数学……小学校は三日間三地区で、集合、関数、統計・確率の考えを中心に。中学校は前期(三日間)三地区で、集合・論理、関数、確率・統計を、後期二日間は県教育センターで数概念と代数系、図形を予定。高校は五日間、うち1日は県外講師を予定。

英語……中学対象講座(036,039)、高校対象講座(047)。受講者計63名。本年度は、中高の連けいを図る意味で、中学校講座の受講者は高校の授業を、高校講座の受講者は、中学の授業参観を、各講座の最終日に計画した。(084)は中高のLL担当者の研修。

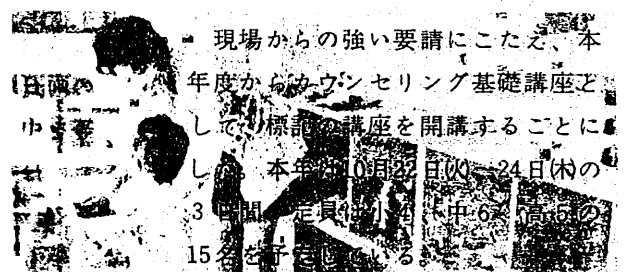
音楽……○小学校→講座内容は鍵盤和声、リコーダーフルートの奏法和声の応用としてリコーダーを中心とした合奏編曲法等である。今年は本格的な管楽器フルートをとりあげリコーダとのちがいを研究してみる。○中学校→日本の音楽。尺八の奏法実技を考えている。

図工・美術……ここ数年実技を中心としてきたが、このねらいは、教師自身が制作することをとおして、児童・生徒の学習意欲をたかめさせることにある。領域を広めて講座を実施することも目下検討中である。

子どもと親への出会いの日々

教育相談研究室

—カウンセラー養成講座を新設—



本年度の奉仕活動体制 — そのあらまし —

○来談者の増加に加え、相談内容の多様化に伴う措置として、当教育相談研究室では次のような分担により面接・治療に当ることとした。

- 幼稚園児の面接・治療 (伊藤、板垣)
- 小学校児童の面接・治療 (向山、板垣)
- 中学校生徒の面接・治療 (向山、木村)
- 高等学校生徒の面接・治療 (木村、森元)
- 特殊(心身障害)児の面接・治療 (伊藤)
- 受理・紹介あつ旋、補充面接等 (渡辺)

○毎月最終土曜日を定例報告会開催の日に充て、その月に扱った相談事例を各担当者から報告してもらい、治療方針や処置について検討し合っ、それぞれのケースの最も適切な解決の方向を見いだすことにつとめている。

ちなみに、4月および5月の定例会において報告された件数は次のとおりであった。

4月	(幼) 2	(小) 13	(中) 5	(高) 2	(その他) 3
5月	" 6	" 23	" 6	" 4	" 2

(注) 幼・小の中に特殊児を含む。その他は予備校生等。

観察・実験法の工夫と検討

理科研究室

研修講座の実施にあたって

理科教育現代化の考え方を吟味しながら、その線にそった観察・実験法や指導法のくふう、検討を行なっていきたい。受講された先生がたからいただいた各講座に対するご意見、ご要望等を手がかりとして計画をたてたが、できるだけ実際の授業での問題点を話題にし、当方の資料提供も含めて、今後の授業に役立てていただくことを考えている。

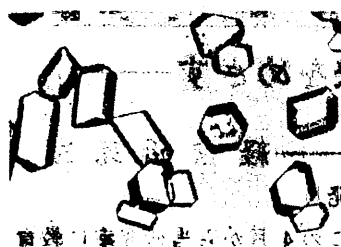
実施にあたっては、できるだけ小人数のグループで気軽に伸び伸びと観察・実験ができるように心がけている。

新講座から 本年から、理科基礎講座量子化学(高校教員対象)を開講することにしたところ、定員を越えた30余名の受講申し込みがあった。講師に宮城教育大学教授平野康一氏をお迎えし、11月28、29の両日にわたり、日常先生がたが持たれている問題点等を中心に、授業にあたって教師がバックグラウンドとしては握しておくべきことを講義していただく予定である。

受講される先生がたに 事前に実施要項をお手もと

にお送りするので、内容についてできるだけ検討されたうえ、具体的な問題点や実施された実験法やデータ等ご準備いただければ幸いである。

塩酸にアルミニウムがとけてできるもの



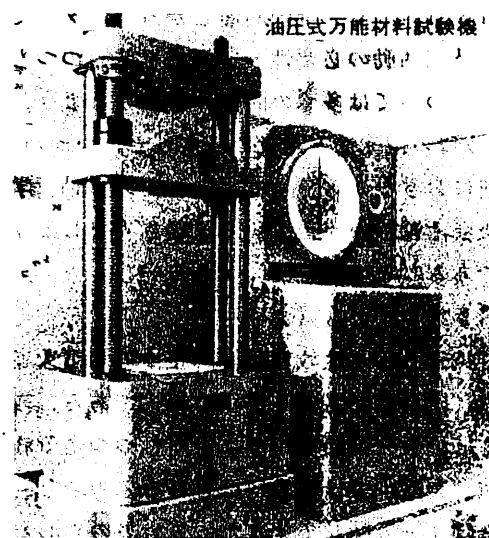
塩酸とアルミニウムの反応液を蒸発ざらに入れて煮つめ、析出した結晶を含む液を検鏡(×150)

— 小学校理科研修講座(水溶液と金属)より —

新しい内容に取り組む

技術・家庭研究室

材料や接着力の強さについて 金属材料では、強さ・延性・粘り強さおよびかたさなどを試験するが、昨年度導入した万能材料試験機で引張試験を行ない、鉄鋼の炭素量の多少による強さ・伸びなどの違いや、鉄鋼と非鉄材料の比較を、荷重-伸び線図から検討することにしている。その他、かたさ試験、衝撃試験なども行ない、鉄鋼中の炭素は強さに関係があるかを考えたいと思っている。また、木材では樹種や材質による曲げ強さや、接着力の強さなどを、この試験機で測定し、組み立て品の強度に対する基礎的な認識を得る内容を実施したいと思っている。



男子向き、共通研修について 昨年度は、教育工学に関する内容を中心に実施したが、本年度は現場からの要望の多い栽培領域について実施することにした。内容は、秋田県農業試験場に於ける草花栽培を中心とした実地見学と、指導課加藤文治指導主事を講師として「栽培に関する基礎理論」を中心とした講義を予定している。

昭和49年度学校調査結果の概要

— 調査統計係 —



毎年当センターが行なっている「学校調査」(5月1日現在)の昭和49年度分結果がまとまったので、その概要をお知らせします。詳細は7月中旬発行予定の「学校統計一覧」に登載するのでご利用ください。

1. 学校数・学級数

区分	学校数				学級数										48年度		
	本校	分校	計	48年度	単式学級							複式学級	特殊学級	計			
					1年	2年	3年	4年	5年	6年	計						
公立	小学校	370	40	410	417	574	516	540	589	586	606	3,411	191	243	3,845	3,909	
	中学校	166	2	168	175	538	553	582	-	-	-	1,673	4	129	1,806	1,881	
	高	全日制	50	-	50	50	332	332	330	-	-	-	994	-	-	994	990
		定時制	28	24	52	55	83	84	86	83	-	-	336	6	-	342	353
	校	通信制	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特殊学校	5	1	6	6	幼3	小48	中22	高17	専4	専二2	96	小1中6	-	-	103	88	
国立	小学校	1	-	1	1	3	3	3	3	3	3	18	-	-	18	18	
	中学校	1	-	1	1	4	4	4	-	-	-	12	-	-	12	12	
	特殊学校	1	-	1	1	中3	高2	-	-	-	-	5	小3	-	8	7	
私立	中学校	1	-	1	1	2	2	2	-	-	-	6	-	-	6	6	
	高等学校	5	-	5	5	50	49	50	-	-	-	149	-	-	149	150	

2. 児童数・生徒数

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計			48年度		
							男	女	計			
公立	小学校	18,230	15,821	17,264	19,207	19,330	19,805	56,071	53,586	109,657	111,805	
	中学校	20,064	20,721	21,817	-	-	-	32,047	30,555	62,602	65,680	
	高	全日制	15,170	14,933	14,723	-	-	-	23,879	20,947	44,826	44,774
		定時制	1,687	1,468	1,323	1,347	-	-	3,371	2,454	5,825	6,132
	校	通信制	-	-	-	-	-	-	453	380	833	885
特殊学校	幼14	小247	中138	高93	専27	専二13	317	215	532	481		
国立	小学校	119	115	120	119	120	113	355	351	706	711	
	中学校	182	171	171	-	-	-	264	260	524	518	
	特殊学校	小20	中31	高15	-	-	-	36	30	66	60	
私立	中学校	74	79	79	-	-	-	-	232	232	229	
	高等学校	2,673	2,521	2,490	-	-	-	2,287	5,397	7,684	7,652	

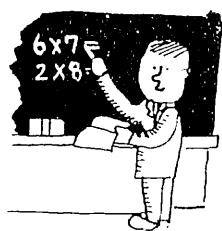
※ 特殊学校欄中幼、小、中、高、専、専二とあるのは、幼稚部、小学部、中学部、高等部本科、高等部専攻科、高等部専攻科二部のことである。

※ 高校は本科生のみ計上

3. 教職員数

区分	校長	教諭		助教諭		養護		講師		合計			48年度	事務職員			48年度		
		男	女	男	女	教諭	助教	男	女	男	女	計		男	女	計			
公立	小学校	370	2,084	2,621	1	1	183	3	58	77	2,513	2,885	5,398	5,394	99	35	134	110	
	中学校	152	2,301	856	-	-	108	1	36	25	2,489	990	3,479	3,571	129	16	145	145	
	高	全日制	50	2,015	339	-	-	48	-	28	17	2,093	404	2,497	2,499	137	68	205	194
		定時制	3	347	67	-	-	3	-	16	14	366	84	450	434	31	10	41	41
	校	通信制	-	9	1	-	-	-	-	-	-	9	1	10	11	1	1	2	2
特殊学校	5	88	64	-	-	4	-	2	7	95	75	170	140	13	7	20	13		
国立	小学校	-	19	5	-	-	1	-	-	-	19	6	25	26	1	3	4	5	
	中学校	-	19	2	-	-	1	-	-	-	19	3	22	22	1	2	3	3	
	特殊学校	-	11	4	-	-	1	-	-	-	11	5	16	14	-	2	2	1	
私立	中学校	-	5	12	-	-	-	-	1	1	6	13	19	17	-	4	4	5	
	高等学校	4	158	82	-	1	-	1	24	22	185	107	292	290	12	35	47	54	

告知板



○ 所員の移動

〈退職〉

庁務員 工藤政治

〈転出〉

総務課長補佐 中村正二 本庄養護学校事務長へ

調査統計係長 伊藤守一 本庁総務課主査へ

教育研究部長 小嶋敏夫 米内沢高校教頭へ

指導主事 高橋秀雄 土崎南小教諭へ

” 島森道邦 文化課学芸主事へ

” 山下 弘 五城目高校教諭へ

〈転入〉

総務課長 相馬大二郎 指導課長補佐から

総務課長補佐 赤羽武俊 本庁総務課財産管理係長から

主事 佐藤 実 県立体育館庶務係から

” 石沢直隆 民生部青少年課児童係から

教育研究部長 小貫山達夫 秋田北高教諭から

指導主事 三浦万蔵 上新城小教頭から

” 進藤史生 秋田商業高校教諭から

” 本郷敏夫 秋田高校教諭から

〈所内〉

調査統計係長 大和 進 調査統計係主任から

主任 阿部茂夫 調査統計係主事から

” 今田 猛 ”

指導主事 吉富庸四郎 理科研究室から経営研究室へ

○ 研究員（2か年研修）

秋田西中教諭 佐藤次男（経営研究室）

旭川小教諭 鎌田義雄（ ” ）

土崎南小教諭 板垣栄子（教育相談研究室）

仙南中教諭 渡辺征二郎（理科研究室）

○ 昭和48年度刊行物

①研究紀要 第5集（所員の研究集録）

②研修集録 第5集（研集生の報告書）

③教育研究資料件名目録 第6号

④学習指導改善のための学習評価に関する研究

⑤複式学級の学習指導（国語・社会・算数・理科）

⑥理科実験観察カード 第4集（中学校）

⑦学校統計一覧

⑧本県教育費の実態

○ 新しい研修員のみなさん（5か月研修）

菅原慈郎（坊ヶ沢小・特活） 佐々木一雄（吉田中・学年学級経営）

小松典松（大曲小・図工） 高橋重行（浅舞小・国語）

増川 桁（本庄北中・音楽） 上杉直上（扇田小・社会）

最上隆二（大館鳳鳴高・数学） 森元章夫（平鹿高・進路指導）

渡辺忠男（鹿山小・化学） 佐々木定男（平和中・地学）

鈴木 健（能代一中・生物） 佐々木武（秋田工・物理）

藤田良子（生保内中・家庭） 小玉康夫（羽城中・機械）

小林健夫（八幡平中・電気） 椎名延子（由利高・被服）

なお、研修報告会は9月18日（水）、当センターで行ないます。

教育相談室から

—お知らせ

おねがい—

昨年度の面接・治療状況は下記のとおりです。今年度は5月までに新たに50件継続中です。スタッフも増員され、張り切っています。悩む親に来所をおすすめください。

主訴別受理数・面接延数

昭和48年度

知能 学業	言語 障害	神経 症	反社 会性	登校 拒否	夜尿 車酔	進路 適性	その他	受理数 合計	面接 延数
415	6	27	13	36	35	3	1	536	844

全県児童・生徒理科研究発表大会について

昨年度・第8回発表大会では、小学校50題、中学校31題、高校13題の参加があり、その内容および発表技術とも優れたものばかりでした。

本年度第・9回発表大会は、下記の期日に実施することになっているが、詳しいことは、後日配布する実施要項を参照してください。

小学校 11月6日（水）

中学校 11月7日（木）

高等学校 11月8日（金）

編集後記

したたるような緑が美しいこのごろです。中庭では美術の先生方が石膏教材の制作に励んでいます。

第12号は「教育センターの研修を考える」を中心に編集してみました。先生方とのパイプ役になればと念じてお届けします。

教育センターだより

第12号

発行年月日 昭和49年6月21日

編集発行者 秋田県教育センター

秋田市仁井田字濁中島 297の11